

「健康食品業界 アドバンスクラスセミナー」 (2 コース) のお知らせ

3月1日(火) 10時~11時50分

「健康食品の安全性向上に向けて」

1. 健康食品の安全性確保に関する基本的な考え方と「平成17年通知」
2. 健康食品の安全性評価：評価のポイントと評価結果の活用

3月1日(火) 13時半~15時半

「食品・健康食品に関する国内外の情報収集」

— 有用情報源の紹介、効率的なグーグル検索、海外公的機関について —

(第1部：国内編、第2部：国外編)

プログラム詳細、参加申込みはこちら <https://www.jhnfa.org/topic397.pdf>

健康食品等に関する

日本語記事情報 (2022年1月号 No.2)

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、(公財)日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

(例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等)

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

英文記事情報については別途お送りいたします。

○ **記事のカテゴリー** (見出しをクリックすると該当カテゴリーに移動します)

[安全性関連情報](#)

[不適切な表示、販売など \(行政機関情報、その他\)](#)

[行政・法令関連情報 \(その他\)](#)

[海外公的機関情報](#)

[市場予測、動向 \(食品・健康食品全般\)](#)

[具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 \(市場予測・動向等\)](#)

[市場・企業動向、注目ビジネス情報](#)

[消費者意識等の調査・分析](#)

[食品、食品素材・成分関連情報（科学的知見中心）](#)

[その他の注目研究・技術情報](#)

[その他](#)

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）と（情報元の下承が得られた場合は）冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 安全性関連情報

[国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 被害関連情報および素材情報データベース](#)

2022年1月更新中

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2443>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2440>

素材情報データベース（新規） 1月21日13時時点ではありません。

2021年12月分

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2433>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2432>

素材情報データベース（新規） 12月はありませんでした。

[食品安全情報（化学物質） No.02 \(2022.01.19\)](#)

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202202c.pdf>

別添（食品安全情報（化学物質） No.02 (2022)別添）

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202202ca.pdf>

[全リスト](#)

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

[記事のカテゴリーに戻る](#)

■ 不適切な表示、販売など（行政機関情報、その他）

今回は特に見当たりませんでした

■ 行政・法令関連情報（その他）

りんごジュース中のプロシアニジン類の定量－高速液体クロマトグラフ法の日本農林規格案についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2022/1/17

<https://public-comment.e->

gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003423&Mode=0

魚類の鮮度（K値）試験方法－高速液体クロマトグラフ法の日本農林規格案についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2022/1/17

<https://public-comment.e->

gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003422&Mode=0

[記事のカテゴリに戻る](#)

■ 海外公的機関情報

ドイツ連邦リスク評価研究所の FAQ（12 日分の最初の見出し）

[BfR] 日用品のビスフェノール A : FAQ

食品安全情報 blog2 - 2022/1/12

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2022/01/12/174252>

冒頭の見出し「[EFSA]意見等」の次の見出しです

[FDA]FDA はマグネシウムと高血圧のリスク低減に関する限定的健康強調表示を発表

食品安全情報 blog2 - 2022/1/13

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2022/01/13/175747>

以下の 8 件は、食品安全委員会 食品安全総合情報システム

(<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報 (22/1/12 確認) の中から、気になったものを

選定しました。前号の別セクションでご紹介した情報と重複するものも、念のためピックアップしております。

[見出しのクリックで内容をご覧ください。](#)

[15. 欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としてのターメリック\(Curcuma longa L.\)由来テトラヒドロクルクミノイドの安全性に関する科学的意見書を公表](#)

[17. 欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としての Wolffia globosa 粉末の安全性に関する科学的意見書を公表](#)

[21. 欧州食品安全機関\(EFSA\)、食事由来ばく露評価のための存在量データの取り扱いに関するテクニカルレポートを公表](#)

[30. オーストラリア・ニュージーランド食品基準機関\(FSANZ\)、オーストラリアにおけるパーフルオロ化合物に関する取り組みについて公表](#)

[34. 欧州食品安全機関\(EFSA\)、複数の化合物への複合ばく露のヒトのリスク評価のための、化合物を評価グループに分類する科学的基準に関するガイダンス文書を公表](#)

[36. 米国食品医薬品庁\(FDA\)、食物繊維としてのアカシア\(アラビアガム\)に関する市民請願を受け入れる旨を公表](#)

[43. 欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品中のビスフェノール A の存在に関連する公衆衛生へのリスクの再評価に関する科学的意見書案を公表し、意見公募を開始](#)

[55. ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、食品サプリメント中のクルクミンに関する意見書を公表](#)

[記事のカテゴリーに戻る](#)

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

[21 年健食市場、微減の 1 兆 2,700 億円 「免疫」「フェムテック」等、注目度上昇](#)

健康メディア.com - 2022/1/20

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15798

2021年の健康食品市場規模は、本紙の推計で前年比0.3%減の約1兆2,700億円となった。健康志向の高まりを背景に、通信販売と薬系店舗がさらに拡大した一方、訪販・MLMチャネルでは、長引くコロナ禍の影響を受けた。緊急事態宣言もあり、百貨店等の食系店舗も伸び悩んだ。とはいえ、全体では過去3番目の市場規模。青汁、乳酸菌、プロテインといった素材が市場を牽引する中、NMN、プラントベース、フェムテックといった新たなトレンドも萌芽している。-----

[記事の 카테고리](#)に戻る

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

機能性表示食品が続々、店販は混戦模様（特集：注目のダイエット食品）

健康メディア.com - 2022/1/11 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15783

ダイエット訴求の機能性表示食品が増えている。脂肪、BMI、糖、ウエストサイズ、お腹まわり等の表示を活用したサプリメント、飲料が続々登場。特に薬系ルートでは、シェア争いが繰り広げられている。ブラックジンジャー、葛の花エキス、ターミナリアベリリカ、サラシアをはじめ、機能性表示対応素材も増え、原料・受託メーカーによる提案が活発化している。-----

市場復調の兆し 世界的にも需要拡大（特集：ヒアルロン酸）

健康メディア.com - 2022/1/19

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15792

新型コロナウイルスの影響によりダメージを受けた美容カテゴリーだが、去年は需要回復から化粧品や美容食品などの関連市場が復調傾向になった。ヒアルロン酸については特に化粧品での持ち直しがみられ、コロナ以前の水準に戻りつつある。食品分野では一部足踏み状況もみられるが、マスク着用など新しい生活様式によって引き起こされる肌トラブル対策として従来にないニーズも出てきている。「肌の水分維持」で機能性表示が行えるヒアルロン酸の利用拡大も期待されている。一方グローバルでみると、ヒアルロン酸市場の成長は年平均6~8%で伸長していくとの予測レポートも。-----

矢野経済研究所、栄養剤・流動食・栄養補給食品の国内市場調査、2020年度は前年度比2.8%増の1452億円に

マイライフニュース - 2022/1/12

<https://www.mylifenews.net/data/2022/01/2020281452.html>

2020年度の栄養剤・流動食・栄養補給食品の市場規模（メーカー出荷金額ベース）は、前年度比102.8%の1452億円と推計した。2020年度の内訳を見ると、栄養剤市場の規模は前年度比103.7%の368億円、流動食市場の規模は前年度比102.2%の811億円、栄養補給食品市場の規模は前年度比103.4%の272億円となった。傾向としては、-----

[記事のカテゴリに戻る](#)

■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

[第2回] 味の素の「勝ち飯AI」、食品会社がアプリ開発のワケ

Beyond Health（日経BP総合研究所） - 2022/1/11

<https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/feature/00049/122400002/>

責任ある飲酒に関するグローバルマーケティング指針を策定

キリンホールディングス株式会社 - 2022/1/12

https://www.kirinholdings.com/jp/newsroom/release/2022/0112_02.html

キリンホールディングス株式会社（社長 磯崎功典、以下キリン）は、「責任ある飲酒に関するグローバルマーケティング指針（以下、本指針）」を策定しました。

本指針は「キリングroup CSV パーパス※1」の一つである「酒類メーカーとしての責任」の取り組みの一環です。当社はアルコール関連問題に対する基本方針を既に公開しておりますが、今回新たに責任ある飲酒に関するマーケティングについての指針を策定しました。

本指針は、酒類メーカーとして責任ある事業を展開することを社会へ向けて約束し、社会やお客様からの信頼と共感をいただくとともに、「アルコールの有害飲酒の根絶」に向けた取り組みを発展させることを目的としています。

なお、本指針を適用する対象会社はキリンビール株式会社、メルシャン株式会社、Lion Pty Ltd、および Myanmar Brewery Limited となります。

※1 長期経営構想「キリングroup・ビジョン2027」の長期非財務目標として、社会と価値を共創し持続的に成長するための指針

【連載】ベンチャー巡訪記【全記事まとめ】

AnswersNews - 2022/1/13 <https://answers.ten-navi.com/pharmanews/19621/>

製薬業界のプレイヤーとして存在感を高めるベンチャー。注目ベンチャーの経営者を訪ね、創業のきっかけや事業にかける想い、今後の展望などを語ってもらいます。-----

[記事のカテゴリに戻る](#)

■ 消費者意識等の調査・分析

高齢者”きもち”調査 2021 年

～60～90 歳の高齢者 2500 名の”きもち”を定量的に徹底分析～

株式会社日本能率協会総合研究所 - 2022/1/11

https://www.jmar.biz/report2/6090feelings_2021/?tab=freereport

○高齢者 60～90 歳 2500 名を対象とした、国内唯一の高齢者大規模郵送調査。

○100 を超える意識項目で、高齢者の「きもち」を明らかにします。

○様々な行動に対する「楽しさ・喜び」の感じ方を年代差で検証します。

○その他意識・行動に変化が訪れる年齢を追究します。

ノボノルディスクファーマ、47 都道府県を対象とした「肥満」と「肥満症」に関する意識実態調査、減量のために医師に相談したことがある人は 5.4%

マイライフニュース - 2022/1/14 <https://www.mylifenews.net/data/2022/01/4754.html>

ノボ ノルディスク ファーマは、全国 47 都道府県の男女 9400 名（20～75 歳）を対象に「肥満」と「肥満症」に関する意識実態調査を実施し、1 月 12 日、調査結果を発表した。同調査は、第三者調査会社を通じて「肥満」または「肥満症」の疑いがある BMI（体格指数）25 以上の男女を対象に行ったインターネット調査で、減量の経験、「肥満」および「肥満症」に対する意識と態度を探ったもの。調査からは、「肥満」を解消するために病院に行ったり、医師に相談したことがある人は非常に少なく、また、「肥満」と「肥満症」の違いについての認知度が低いことが明らかになった。-----

[記事のカテゴリーに戻る](#)

■ 食品、食品素材・成分関連情報（科学的知見中心）

ローズマリー由来のカルノシン酸が新型コロナを抑制する可能性新たな作用メカニズムを論文発表 -- 東京工科大学応用生物学部

大学プレスセンター - 2022/1/12 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-47387.html>

東京工科大学（東京都八王子市、学長：大山恭弘）応用生物学部の佐藤拓己教授らの研究グループは、ハーブの一種であるローズマリー由来のカルノシン酸（CA）が、新たなメカニズムで新型コロナウイルス感染症（COVID-19）を抑制する可能性を示す論文を発表しました（図 1）。-----

カテキン重合物が燃焼型脂肪細胞を増加させる カテキン重合物の反復経口投与で白色脂肪細胞の褐色化を確認

芝浦工業大学 - 2022/1/14

<https://www.shibaura-it.ac.jp/news/nid00002018.html>

芝浦工業大学(東京都港区／学長 山田純)システム理工学部生命科学科・越阪部教授ら研究チームは、ココアやワインに多く含まれるフェノール性物質であるカテキン重合物画分の経口投与が、交感神経系の活性化を介して、燃焼型であるベージュ脂肪細胞を増加させることを実証しました。

燃焼型脂肪細胞である褐色またはベージュ脂肪細胞は、脂肪を分解し、熱として体外に放出することが知られています。カテキン重合物を効果的に食事に取り入れることで、燃焼型脂肪細胞が増え、体内の余分な脂肪を燃焼させることで、肥満や心臓病の予防に役立つ可能性を示しました。

※この研究成果は、「Nutrients」誌オンライン版に掲載されています。

カレーに認知機能を保つ効果 日本人対象の調査でも ハウス食品の研究

財経新聞 - 2022/1/9 <https://www.zaikei.co.jp/article/20220109/655220.html>

ハウス食品グループ本社（東京都千代田区）は7日、カレーの摂取が認知機能を良好に保つ効果があるとの研究成果を公表した。カレーに含まれる多様なスパイスが、高齢者の認知機能維持に役立つ。シンガポールでは既に同様に研究成果が報告されているが、日本の中高齢者を対象とした調査は今回が初めてだ。-----

シトラス果皮発酵エキス「4'-デメチルノビレチン」が 角層セラミド量を増加させ、シワを改善させることを富士産業が発見

- 「第5回ノビレチン研究会」にて優秀発表賞を受賞 -

富士産業株式会社 - 2022/1/18 <https://www.fuji-sangyo.co.jp/news/entry.php?id=136>

富士産業株式会社(本社：香川県丸亀市田村町 1301／代表取締役：岡田 篤典)は、この度、シトラス果皮発酵エキスに含まれる「4'-デメチルノビレチン」(以下「4'-DeNOB」と記載)が、肌保湿に重要な角層セラミド量を増加させることを新たに見出しました。さらに連用使用により、目尻のシワを改善することを確認いたしました。

今回得られた結果により、「4'-DeNOB」を含有するシトラス果皮発酵エキスは、エイジング世代の肌悩みに対して有効であると考えられ、肌質を改善しながら、肌本来の保湿機能を維持する新たなエイジングケアアプローチとして期待できます。

本研究成果の一部は、第5回ノビレチン研究会(2021年12月10日開催)にて発表しました。新たなエイジングケア成分への注目度は高く、本発表演題は、優秀発表賞を受賞いたしました。-----

緑黄色野菜などに含まれるスルフォラファンに炎症抑制効果があることを発見—九大ほか

QlifePro 医療ニュース - 2022/1/14

<http://www qlifepro.com/news/20220114/sulforaphane.html>

P2Y₆Rの「IBDの病態」に対する役割は？

九州大学は1月12日、ブロッコリースプラウトなどの緑黄色野菜に多く含まれるスルフォラファンやイベリンが細胞膜表面にある炎症誘導性のGタンパク質共役型受容体「P2Y₆R」と結合し、細胞内への取り込みと分解を促進することで、炎症を抑制することを明らかにしたと発表した。この研究は、同大学院薬学研究院の西田基宏教授（生理学研究所・生命創成探究センター教授兼務）と西山和宏講師、生理学研究所（生命創成探究センター）、東北大学、筑波大学、大阪府立大学、東京工業大学、東京大学との共同研究グループによるもの。研究成果は、「Science Signaling」オンライン版に掲載されている。-----

植物乳酸菌 IJH-SONE68 産生の EPS、通年性アレルギー状態を軽減—広島大

QLifePro 医療ニュース - 2022/1/17

<http://www qlifepro.com/news/20220117/ijh-sone68-eps.html>

イチジクの葉から得られた乳酸菌産生の細胞外多糖体 EPS、ヒト臨床研究へ

広島大学は1月14日、植物由来乳酸菌（植物乳酸菌）の一種「Lactobacillus (Lb.) paracasei IJH-SONE68」がつくる細胞外多糖体（exopolysaccharide : EPS）を摂取することで、通年性アレルギーの状態が軽減されることをヒト臨床研究で証明したと発表した。この研究は、同大学院医系科学研究科未病・予防医学共同研究講座の杉山政則教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Nutrients」に掲載されている。-----

ビフィズス菌 MCC1274 のアルツハイマー予防効果をマウスで確認—名古屋大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2022/1/20

<http://www qlifepro.com/news/20220120/mcc1274.html>

ビフィズス菌 MCC1274 の作用メカニズムと医薬品用途の可能性を探索

名古屋市立大学は1月19日、ビフィズス菌 MCC1274 (Bifidobacterium breve MCC1274) をアルツハイマー病モデルマウスに摂取させると、アルツハイマー病モデルマウスで見られる記憶障害が予防されることを明らかにしたと発表した。この研究は、同大学院医学研究科神経生化学分野の道川 誠教授、鄭 且均准教授、森永乳業らの研究グループによるもの。研究成果は、「Journal of Alzheimer's Disease」に掲載されている。

腸管「パネート細胞」の分化と機能に腸内細菌と免疫細胞が重要－東大医科研ほか

QLifePro 医療ニュース - 2022/1/20

<http://www.qlifepro.com/news/20220120/paneth-cells.html>

腸管恒常性維持や感染制御に関わるパネート細胞、分化や機能制御メカニズムは？

東京大学医科学研究所は1月19日、糖鎖を指標としてパネート細胞を機能的に分類し、その分化や機能制御について解析したところ、腸内細菌と免疫細胞由来サイトカインがパネート細胞サブセットの分化・機能を制御していることを見出したと発表した。この研究は、同研究所粘膜免疫学部門の神岡真理子特任研究員と清野宏特任教授らの研究グループが、千葉大学の後藤義幸准教授、倉島洋介准教授、北海道大学の中村公則准教授、綾部時芳教授らとの共同研究として行ったもの。研究成果は、「Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America」オンライン版に掲載されている。-----

欧州の合成カンナビノイド・レビュー（2021年9月）

日本臨床カンナビノイド学会 - 2022/1/11

http://cannabis.kenkyuukai.jp/information/information_detail.asp?id=121685

合成カンナビノイドについてお問い合わせがあったので、欧州薬物・薬物依存監視センター（EMCDDA）が発行する合成カンナビノイドの最新資料を仮訳しました。米国のヘンプ由来 CBD の合法化に伴い、CBD 誘導体となる半合成カンナビノイドが注目されています。用語の整理を含めて御参照下さい。-----

以下の4件は、リンク DE ダイエット（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）掲載記事（2022年1月11日～21日）から選定したものです。

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/>

ハーブに含まれる抗がん化合物のレシピを発見（2022/1/11）

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76834&-lay=lay&-Find.html>

タイムとオレガノは腫瘍の発生を抑制する抗がん化合物を含むが、トマトソースにさらに加えるだけでは大きな利益を得るのに十分ではなく、これらの植物の力を解き放つ鍵は、生成される化合物の量を増幅するか、医薬品開発のために化合物を合成することであるという。米国パデュー大学の研究チームは、タイムとオレガノなどシソ科におけるチモール、カルバクロールおよびチモヒドロキノンの生合成は、チトクローム P450 および短鎖デヒドロゲナーゼを介することを明らかにした。-----

高用量ビタミン D を 5 年摂取しても、心疾患やがんに影響なし？

(2022/1/13)

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=76870&lay=lay&Find.html>

推奨されるよりもはるかに高い用量のビタミン D を 5 年間摂取しても、高齢男女の総死亡率や心血管疾患またはがんの発生率に影響を与えないようだ、という東フィンランド大学からの研究報告。-----

腸には本物の砂糖と人工甘味料の違いがわかる？ (2022/1/18)

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=76923&lay=lay&Find.html>

味蓄はスプレンドのような糖代替品と本物の糖を区別できないことがあるが、腸内には 2 つを区別できる細胞があり、数ミリ秒で脳に違いを伝えることができる、という米国デューク大学からの研究報告。-----

妊娠中の甘味料、子の腸内細菌叢と肥満リスクに影響か (2022/1/19)

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=76930&lay=lay&Find.html>

妊娠中に甘味料のステビアやアスパルテームを摂取すると、産まれた子は肥満リスクが高まるとともに腸内細菌叢に特定の変化があったという。カナダ・カルガリー大学による動物実験から。一方で、母親における影響はごくわずかだったという。-----

以下の 3 件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事 (2022 年 1 月 11 日~21 日) から選定したものです。

運動前の炭水化物摂取にタンパク質を加えると、翌日の持久力パフォーマンスが向上する可能性 (2022/1/12)

<https://sndj-web.jp/news/001642.php>

持久力パフォーマンスの維持・向上に運動前の炭水化物の摂取が重要であることはよく知られているが、これにタンパク質を加えた場合の影響を検討した研究結果が報告された。タンパク質を加えても、当日の持久力パフォーマンスには影響はないが、翌日のパフォーマンスが上昇する可能性があるという。-----

HDL-C と血圧の U 字型の関係が明らかに HDL-C 低値はメタボ、高値は飲酒の影響か 特定健診 150 万人のデータを解析 (2022/1/13)

<https://sndj-web.jp/news/001645.php>

神奈川県内の特定健診受診者のビックデータを解析した検討から、善玉 (HDL) -コレステロールと血圧は U 字型の関係にあることが明らかになった。神奈川県立保健福祉大学大学院保健福祉学研究科の中島啓氏らの研究によるもので、「Journal of Clinical Medicine」に論文が掲載された。同氏らは、HDL-C 低値で血圧高値の場合はメタボリックシンドローム (Met-S) の影響、HDL-C 高値で血圧高値の場合は飲酒の影響により、両者が U 字型の関係になるのではないかと考察している。-----

ゆっくり、良く噛んで食べるとエネルギー消費量が増加する 飲み物も噛んで飲むことが大切 (2022/1/19)

<https://sndj-web.jp/news/001648.php>

朝食が体重増加につながるメカニズムの一端が明らかになった。食物が固体か液体かにかかわらず、咀嚼が食後のエネルギー消費量の増加を導くことが示され、「良く噛むこと」が減量に結びつく可能性があるという。早稲田大学と国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所のグループの研究によるもので、「Scientific Reports」に論文が掲載されるとともに早稲田大学のサイトにニュースリリースが掲載された。-----

カテキンを摂取すると体内の余分な脂肪が燃焼しやすくなる、芝浦工大が実証

マイナビニュース - 2022/1/17

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20220117-2250787/>

[記事のカテゴリーに戻る](#)

■ その他の注目研究・技術情報

学習を制御するタンパク質が困ったとき「兄弟」タンパク質が助ける、 東京大学が発見

大学ジャーナルオンライン - 2021/1/8 <https://univ-journal.jp/137176/>

線虫は、PKC-1 というタンパク質の働きによって自分の飼育されていた環境を記憶する。今回、東京大学の廣木進吾大学院生と飯野雄一教授は、PKC-1 の「兄弟分」であるよく似たタンパク質 TPA-1 が、特定条件で PKC-1 の機能をサポートすることを明らかにした。-----

細胞を横断してビタミン C を脳に届ける輸送体、東京大学が発見

大学ジャーナルオンライン - 2022/1/15 <https://univ-journal.jp/139027/>

東京大学のグループは、細胞内から細胞外へビタミン C 輸送を担う排出型の輸送体を世界で初めて明らかにした。

ビタミン C は生存に必須の栄養素として知られる一方で、からだの隅々まで行き渡らせるための体内動態制御についてはあまりわかっていない。特に脳は、ビタミン C を豊富に含む臓器でありながら、関門組織によって血液と隔てられているため、血液から脳へのビタミン C 移行を司る分子機構が存在すると考えられている。-----

層別化された健康な日本人の平均的な腸内細菌叢に関する論文が、 Bioscience of Microbiota, Food and Health 誌に掲載されました

株式会社サイキンソー - 2022/1/13 <https://cykinso.co.jp/news/20220114>

株式会社サイキンソー(本社：東京都渋谷区、代表取締役：沢井 悠、以下サイキンソー)は、神戸大学大学院医学系研究科内科学講座循環器内学分野の吉田尚史研究員、山下智也准教授との共同研究により、層別化された健康な日本人集団の平均的な腸内細菌叢を確立しました。

本研究の成果は、2021 年 12 月 7 日付けで『Bioscience of Microbiota, Food and Health』に掲載されました。

(URL : https://www.jstage.jst.go.jp/article/bmfh/advpub/0/advpub_2021-056/_article)

NAFLD 進行にケモカイン「CCL3」が重要と判明—金沢大

QLifePro 医療ニュース - 2022/1/11 <http://www.qlifepro.com/news/20220111/ccl3.html>

NAFLD の進行に関与しているケモカインは不明だった

金沢大学は1月6日、非アルコール性脂肪性肝疾患（いわゆる脂肪肝）の進行の原因として、CCL3 と呼ばれるケモカイン分子が、重要な役割を果たしていることを明らかにしたと発表した。この研究は、同大医薬保健研究域医学系の長田直人講師らの研究グループによるもの。研究成果は、「Metabolism: Clinical and Experimental」オンライン版に掲載されている。-----

上の記事と同じ研究を紹介しています。

脂肪肝の進行に関与するタンパク質物質を金沢大が特定

マイナビニュース - 2022/1/11

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20220111-2247494/>

骨粗鬆症薬への応用も期待、オートファジーによる骨芽細胞の活性機構が解明

マイナビニュース - 2022/1/20

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20220120-2253404/>

20秒で医薬品向け化合物の製造を可能とする反応装置、京大が開発

マイナビニュース - 2022/1/8 <https://news.mynavi.jp/techplus/article/20220108-2245455/>

油滴を多量に含んだ水の流れの速度をシンプルに導く手法を農工大が考案

マイナビニュース - 2022/1/11

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20220111-2247533/>

Nightingale Open Science - 無償利用可能な「AI 開発向け大規模医学データベース」

The Medical AI Times - 2022/1/17 <https://aitimes.media/2022/01/17/9967/>

カリフォルニア大学バークレー校の医師で、AI 科学者でもある Ziad Obermeyer 氏は2021 年末、Nightingale Open Science を立ち上げた。これは、医学における未解決課題への AI 適用を見据え、多面的にキュレーションしたユニークな医学データセットである。----

蛍光タンパク質の蛍光強度を維持したまま組織・器官を透明化できる 動植物共通の透明化法開発に成功～農作物の品種改良や脳の診断法開発 に貢献～

財経新聞-2022/1/13 <https://www.zaikei.co.jp/releases/1538418/>

プレスリリース発表元：横浜市立大学

2. 発表のポイント：

植物と動物の区別なく、組織や器官を透明化できる方法を開発しました。

この手法を用いて、従来法より蛍光タンパク質の蛍光強度を維持したまま透明化することに成功しました。

組織や器官深部の構造を維持したまま細胞を観察することができるため、器官形成や組織の成り立ちのメカニズム研究の加速、農作物の品種改良や脳の診断法開発への貢献が期待されます

[記事のカテゴリに戻る](#)

■ その他

幸福度と健康関心度の関連も！「ウェルネストレンド白書」徹底活用法

ウェルネス総研オンライン - 2022/1/14 <https://wellnesslab-report.jp/1488/>

一般社団法人ウェルネス総合研究所は、10代～70代、約4800名の生活者の健康・ウェルネスに関する意識と行動分析に基づき、今後予測されるヘルス・トレンドシナリオを洞察した調査レポート『ウェルネストレンド白書 Vol.1』を2021年12月7日に刊行しました。本白書ではプロファイリング分析により、生活者を「7つの健康セグメント」に新たに分類。各健康セグメントの特性を明らかにするとともに、各セグメントによる興味関心をヘルスベネフィット、素材・成分の観点から分析しています。本調査の設計、調査、分析を行った監修をつとめたウェルネス総合研究所の首席アナリストである青木健氏と白井俊行氏に、今回の調査における発見や活用法についてうかがいました。-----

以上